

ビール大麦の側面裂皮粒の気象的発生要因							
〔要約〕 <u>ビール大麦の被害粒である側面裂皮粒は</u>、4月上旬及び出穂期前20日間の日照時間が少なく、5月下旬の登熟後期～成熟期の降水量が多いほど、発生が多い。							
農産研究所・育種部・二条大麦育種研究室					連絡先	092-924-2937	
部会名	農	産	専門	育	種	対象	麦 類
							分類
							指 導

〔背景・ねらい〕

福岡県、佐賀県を中心とした北部九州各県はわが国の主要なビール大麦生産地帯の1つであるが、近年、主要品種の「ニシノゴールド」に被害粒の一つである側面裂皮粒が多発し、外観品質の低下を招いている。このため、側面裂皮粒の発生の少ない外観品質の優れた品種育成が求められている。そこで、側面裂皮粒抵抗性の簡易検定法確立の基礎資料を得るため、側面裂皮粒の発生要因を麦作期間中の気象データから解析し、気象的発生要因を明らかにした。

〔成果の内容・特徴〕

昭和59～平成4年度（播種年度）の9年間における「ニシノゴールド」と「はるな二条」の側面裂皮粒率と、平均気温、最低気温、最高気温、日照時間、降水量の各気象データを用いて、側面裂皮粒の気象的発生要因を明らかにした。

- ① 4月上旬（節間伸長期）及び出穂期前20日間の日照時間が少ないほど発生が多い（表1、2、図1）。
- ② また、5月下旬（登熟後期～成熟期）に降水量が多いほど発生が多い（表1）。

〔成果の活用面・留意点〕

- ① 麦栽培技術指針に掲載し、ビール大麦の安定生産のための技術資料として活用する。
- ② 早播きすると側面裂皮粒の発生が多くなるので、播種適期を守る。

[具体的データ]

表1 4月上旬日照時間及び
5月下旬降水量と側面裂皮粒
率の相関係数

気象 要因	ニシノ ゴールド	はるな 二条
4月上旬 日照時間	-0.87**	-0.86**
5月下旬 降水量	0.67*	0.83**

表2 出穂期前の日照時間と側面裂皮粒率の相関係数

品種名	日 照 時 間					
	出穂期～	6～13	14～20	21～27	28～34	35～41
	6日前	日前	日前	日前	日前	日前
ニシノゴールド	-0.73*	-0.65	-0.77*	-0.05	-0.29	0.31
はるな二条	-0.58	-0.72*	-0.61	0.12	0.30	0.31

注) *, **はそれぞれ 5%, 1%水準で有意。

注) *, **はそれぞれ 5%, 1%
水準で有意。

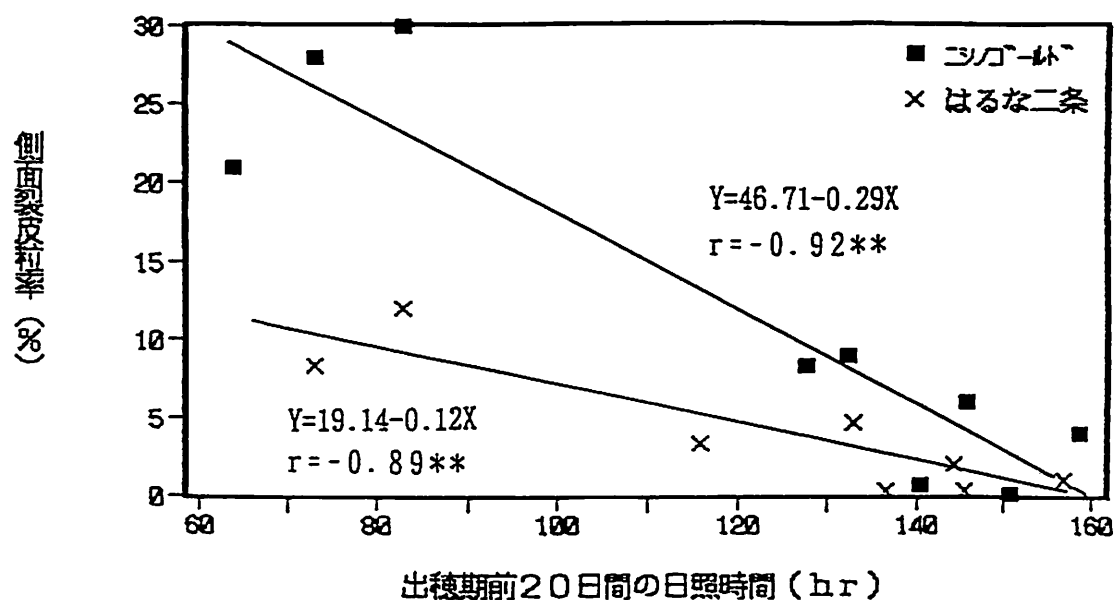


図1 出穂期前20日間の日照時間と側面裂皮粒率の関係

[その他]

研究課題名：不良環境下での各種障害抵抗性の品種間差異と系統選抜法

予算区分：経常

研究期間：平成5年度(平成2～5年)

研究担当者：吉川 亮、水田一枝、山口 修、吉野 稔

発表論文等：ビール大麦の側面裂皮粒、凸腹粒の気象的発生要因、福岡農総試研報14、1995。